都立葛飾商業高等学校　令和５年度　年間授業計画

教科	商業	科目	簿記	学年	1	単位	4
教科書(出版社)	新簿記（実教出版）						
副教材等(出版社)	反復式　簿記問題集　全商３級（実教出版）						

１．学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，簿記の基本的な仕組みについて理解できたか。ビジネスの諸活動を合理的に計画し，その技術を適切に活用しているか。	各取引におけるいろいろな記帳についての解決を目指して思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し，表現する創造的な能力を身に付けているか。	個人企業における簿記に関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けているか。

２．学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	第１編 ・簿記の基礎 ・資産・負債・純資産と貸借対照表 ・収益・費用と損益計算書 ・取引と勘定 ・仕訳と転記 第２編 ・取引の記帳（その1） ・現金・預金などの取引	・記帳の基礎となる簿記のしくみ ・資産，負債，資本の意味及び貸借対照表の作成 ・収益，費用の意味及び損益計算書とその技法 ・取引の仕訳及び転記の方法とその手順 ・基本的な取引の記帳方法について ・現金、当座預金などの取引と、それらに関する帳票の記帳方法について	48
2	第２編 ・商品売買の取引 ・掛け取引 ・手形の取引 ・掛け取引 ・手形の取引 ・有価証券の取引 ・その他の債権・債務の取引 ・固定資産の取引 ・個人企業の資本の取引 ・販売費及び一般管理費と税金の取引 第３編 ・決算（その１） ・決算整理（その1） ・８桁精算表	・３分法の記帳方法 ・仕入帳、売上帳、商品有高帳の記帳方法と売上原価の計算方法 ・売掛金元帳，買掛金元帳の記帳方法 ・約束手形，為替手形のしくみについて ・有価証券のしくみとその取引の仕訳 ・前払金と前受金，仮払金と仮受金等，債権と債務の関係について ・固定資産の意味と種類 ・追加元入れ，引出金とその仕訳 ・販売費及び一般管理費の意味と記帳方法 ・個人企業に課せられる税金の記帳方法 ・決算整理の意味とその必要性について ・各決算整理事項の仕訳 ・８桁精算表がどのように機能しているか	60
3	第３編 ・帳簿決算 第４編 ・会計帳簿と帳簿組織 ・会計帳簿 ・伝票	・損益計算書，貸借対照表の作成と会計情報の重要性について ・決算整理の意味とその必要性について。 ・各決算整理事項の仕訳。 ・損益計算書，貸借対照表の作成と会計情報の重要性について・各帳簿の締め切りの方法について ・分課制度と帳簿組織との関連について ・３伝票を用いた場合の起票や集計方法のルール	32

３．評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【知識及び技能】 個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，簿記の基本的な仕組みについて理解できたか。ビジネスの諸活動を合理的に計画し，その技術を適切に活用しているか。	試験 課題 グループワーク	簿記 3 級程度のどの様な取引についても仕訳でき、それを基に試算表や財務諸表を作成できる。なお、正答率が 90%以上であること。	簿記 3 級程度のやや複雑な取引について理解し、仕訳できる。なお、正答率が 70%以上であること。	簿記 3 級程度の複雑な取引について理解できてない。正答率が 60%以下である。
【思考力、判断力、表現力等】 各取引におけるいろいろな記帳についての解決を目指して思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し，表現する創造的な能力を身に付けているか。	試験 課題 グループワーク	簿記 3 級程度のどの様な取引についても仕訳でき、それを基に試算表や財務諸表を作成できる。なお、正答率が 90%以上であること。	簿記 3 級程度のやや複雑な取引について理解し、仕訳できる。なお、正答率が 70%以上であること。	簿記 3 級程度の複雑な取引について理解できてない。正答率が 60%以下である。
【学びに向かう力、人間性等】 個人企業における簿記に関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けているか。	試験 課題 グループワーク	簿記 3 級程度のどの様な取引についても仕訳でき、それを基に試算表や財務諸表を作成できる。なお、正答率が 90%以上であること。	簿記 3 級程度のやや複雑な取引について理解し、仕訳できる。なお、正答率が 70%以上であること。	簿記 3 級程度の複雑な取引について理解できてない。正答率が 60%以下である。

都立葛飾商業高等学校　令和５年度　年間授業計画

教科	商業	科目	ビジネス基礎	学年	1	単位	3
教科書（出版社）	ビジネス基礎　（実教出版）						
副教材等（出版社）	ビジネス基礎　問題集（実教出版）						

１．学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ビジネスに関する資料を収集・選択し、その情報の持つ意味を的確に読み取り、整理して活用することができる。	ビジネスの諸活動についての基礎的・基本的な知識と技能を活用し，自ら思考し判断したことを適切に表現できる。	ビジネスの諸活動について広く関心を持ち，学習分野と職業との関連の理解を目指して意欲的に取り組むとともに，経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けている。

２．学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	第１章　商業の学習ガイダンス ※電卓の使い方 第３章　経済と流通の基礎 第４章　さまざまなビジネス 東京のビジネス	・商業を学ぶ目的と学び方 ・商業の各分野と職業 ・授業開始５分間は普通計算 ・経済のしくみとビジネス ・社会の変化とビジネスの発展 ・経済活動と流通 ・ビジネスの種類・小売業・卸売業・物流業・金融業・情報通信業 ・敗戦からの復興	36
2	東京のビジネス 第５章　企業活動の基礎 第７章　売買に関する計算 第６章　ビジネスと売買取引	・東京のビジネストレンド ・ビジネスと企業・マーケティングの重要性・資金調達 ・財務諸表の役割・企業活動と税・雇用 ・売買に関する計算の基礎 ・売買に関する計算の応用 ・売買取引の手順・代金決済	45
3	身近な地域のビジネス 東京のビジネス	・さまざまな地域の魅力と課題・地域ビジネスの動向 ・ビジネスの事例 ・これからの東京のビジネス	24

３．評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【知識及び技能】 資料や状況を読み取る力	授業状況 定期考査 課題 提出物	資料や状況から，内容を多面的に読み取り，概要や主題を明確にし，文章にまとめたり，発表することができる。	資料や状況から，内容を読み取り，概要や主題を文章にすることができる。	資料から，内容を読み取り、概要を文章に表すことができない。
【思考力、判断力、表現力等】 問題点や課題に気づく力 新しい発想・提案をする力	授業状況 レポート 課題	与えられたテーマの複数の問題点や課題に気づき，その根拠に基づいて，自ら，新たな発想や提案をすることができる。	与えられたテーマの問題点や課題の１つに気づき，それについて他人の意見を聞きながら，自分の提案をすることができる。	与えられたテーマの問題点や課題に気づき、他人の意見を聞いても，自分の提案をすることができない。
【学びに向かう力、人間性等】 他の意見を受け入れる力 仲間と協力する力	授業状況 グループ活動	違う意見に対し，比較・検討し，その中から解決策を導きだすことができる。 自ら仲間に声を掛け，分担なども行い，率先して，共に作業をすることができる。	違う意見に対し，比較・検討・分類することができる。 自ら率先して作業を行い，仲間と共に取り組むことができる。	自分の考えと違う意見を聞き，理解しようとしている。 仲間から声を掛けてもらい，自分の分担を作業することができる。

※検定試験の結果は加点項目とする（減点要素とはしない）

都立葛飾商業高等学校　令和５年度　年間授業計画

教科	商業	科目	情報処理	学年	1	単位	3
教科書(出版社)	最新情報処理　Advanced Computing（実教出版）						
副教材等(出版社)	令和５年度　全商情報処理検定　模擬試験問題集３級（実教出版） 令和５年度　全商ビジネス文書検定　模擬試験問題集３級（実教出版）						

１．学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会において情報を扱うことを実務に即した形で理解するとともに、必要とされる技術を身に付ける。	実社会において情報を扱う上での課題を発見し、解決までの道筋を自らの判断で創造的に解決する態度を身に付ける。	実社会において情報を扱うものとして能力の向上を目指して自ら学び、情報を適切に学ぶことを主体的かつ協同的に取り組む力を身に付ける。

２．学習内容

学期	単元	授業内容	時数
1	【課題】 ・コンピュータシステムと情報通信ネットワーク ・情報通信ネットワークの仕組みと構成 ・情報セキュリティの確保 ・ワープロソフトを利用した文書の作成	・コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解する。 ・情報通信ネットワークの種類と機能を理解し、適切に活用する態度を身に付ける。 ・情報化社会に参画するために個人が身に付けるべきセキュリティ管理の方法について理解する。 ・ワープロソフトの利用に関する知識と技術を習得する。特にキーボードを用いた入力に関する技術を身に付ける。	36
2	【課題】 ・問題の発見と解決の方法 ・ビジネスと統計	・事象をモデル化し、シミュレーションを行う基礎的な技術及びアルゴリズムの知識を身に付ける。プログラムとして表現する基礎的な技法を用いた問題の発見と解決について学習する。 ・ビジネスにおける表計算ソフトウェアの活用方法について学習する。 ・表計算ソフトの基礎的な知識と技術について学習する。 ・計算式の設定および関数の利用方法等を問題演習で身に付ける。 ・グラフを構成する要素の名称と意味について学習する。 ・表計算ソフトウェアを利用して各種グラフの作成方法を問題演習で身に付ける。	45
3	【課題】 ・ビジネスと統計 ・情報を扱う上での基礎的な知識を身に付ける ・プレゼンテーション	・計算式の設定および関数の利用方法等を問題演習で身に付ける。 ・表計算ソフトウェアを利用して各種グラフの作成方法を問題演習で身に付ける。 ・情報の各分野の知識を確実に身に付けるよう演習問題等に取りくむ。 ・課題を解決する手段としてインターネットを活用した情報の検索・収集の技術を身に付けるとともに情報の価値や正確性について理解する。 ・プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、目的や形態に応じた適切な形で、資料の作成などの発表準備から発表、相互評価までの一連の活動を行う。 ・チームで協力しながら課題を解決することの意義を理解し、活動ができるよう態度を身に付ける。	24

３．評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【知識及び技能】 実社会において情報を扱うことを実務に即した形で理解するとともに、必要とされる技術を身に付ける。	定期テスト	・各学期の考査において正答率が 7 割以上である。 ・タッチメソッドができ 10 分間で 450 字程度の入力ができる。 ・出された課題に対して、表計算ソフトやワープロソフト等を活用し正答率が７割以上である。	・各学期の考査において概ね 5 割以上正答する。 ・概ねタッチメソッドができ 10 分間で 300 字程度の入力ができる。 ・出された課題に対して、表計算ソフトやワープロソフト等を活用し正答率が５割以上である。	・各学期の考査において正答率が 5 割未満である。 ・タッチメソッドが不十分であり､10分間での入力数が 300 字未満である。 ・出された課題に対して、表計算ソフトやワープロソフト等を活用し正答率が５割未満である。
【思考力、判断力、表現力等】 実社会において情報を扱う上での課題を発見し、解決までの道筋を自らの判断で創造的に解決する態度を身に付ける。	課題解決 調査研究 発表	・現状を改善するための課題を発見することができる。 ・課題に対して解決方法を見出すために積極的に調査・研究ができる。 ・発表のための資料作成に主体的､積極的に取り組み､受け手が理解しやすい資料の作成､発表ができる。	・与えられた課題を適切に判断することができる。 ・課題に対して解決方法を見出すために調査･研究ができる。 ・発表のための資料作成に取り組み、受け手が理解しやすい資料の作成、発表が概ねできる。	・与えられた課題を適切に判断することができない。 ・課題に対して解決方法を見出すための調査･研究が不十分である。 ・発表のための資料作成が不十分であり､受け手が理解しやすい資料の作成、発表ができない。
【学びに向かう力､人間性等】 実社会において情報を扱うものとして能力の向上を目指して自ら学び、情報を適切に学ぶことを主体的かつ協同的に取り組む力を身に付ける。	授業状況 出欠 提出物 アクティブラーニング	・授業に積極的に参加し、自らの能力の向上を目指す態度を常に見ることができる。 ・出席率９割以上 ・課題に対して主体的に取り組み求められた水準を超えて課題にとり雲ことができる。 ・協同的な態度で課題に取り組み周囲と協力しながら課題を解決する態度が常に見られる。	・授業に積極的に参加し、自らの能力の向上を目指す態度を概ね見ることができる。 ・出席率７割以上 ・課題に対して積極的に取り組み求められた水準の課題を満たすことができる。 ・協同的な態度で課題に取り組み周囲と協力しながら課題を解決する態度を概ね見られる。	・授業に積極的に参加し、自らの能力の向上を目指す態度があまり見られない。 ・出席率７割未満 ・課題に対して消極的であり､求められた水準の課題を満たすことができない。 ・協同的な態度で課題に取り組み周囲と協力しながら課題を解決する態度があまり見られない。

※具体的な評価方法等

① 課題について、提出期日内に指示された通りの内容で提出できているか。
② 発表等において、自分の考えを他人に的確に伝えることができたか。
③ 検定試験の結果は加点項目とする